

中谷宇吉郎揮毫の書画を大学文書館で受贈

大学文書館では、11月5日（火）、中谷宇吉郎博士揮毫の書画1点（掛け軸）を、青山康彦様からご寄贈いただきました。書画は、青山様のご尊父である石川健康氏の旧蔵品です。12月2日（月）には、中谷博士の旧友による回想記事（和達清夫「中谷宇吉郎君」, 1983年12月5日付『産経新聞』夕刊）も、青山様から受贈しました。

中谷博士と石川氏とのつながりは、ご令兄の松隈健彦氏を介してありました。中谷が東京帝国大学理学部物理学科に在学していた頃、松隈氏は助教授として理学部で教鞭を執っていました。その後、北海道帝国大学理学部物理学科に赴任した中谷を石川氏が訪問し、この書画が贈られたとのことでした。

書画は、書籍（物理学専門書）の水墨画が描かれ、讃には「壺中天地有」と書かれています。「壺中に天地有り」と読み下すことができます。

「壺中の天地」とは、仙人が壺の中にある理想郷で遊んだという『後漢書』方術列伝に基づく故事成語で、俗世間を離れた別世界をあらわしています。

一方、中谷の同僚であった堀健夫教授は、『壺中の天地 分り易く解いた相対性理論』（理学モノグラフ3, 北方出版社, 1947年9月）という書籍を著しています。堀は、科学者の実験室を「壺中」に喩えました。実験室は狭いけれども、望遠鏡を通して遥か彼方の天体を望んだり、原子や電子など極端に小さい世界を覗いたりしている—壺は外から狭く見えても、壺の中の天地は限りなく広い、と述べています。

今後、受贈資料は、大学文書館で大切に保存し、資料見学会や展示等により広く紹介してまいります。

（大学文書館）



壺中天地有